

学習支援を通して感じたこと



大学院地域創生科学研究科1年

アギーレ ナルミ

昨年（2021年）の10月から、真岡市内の小学校で学習支援を始めました。担当している児童は、ペルーにルーツをもつ小学校1年生のAさんです。Aさんは、ほとんど日本語がわかりません。そのため、学習支援は主にスペイン語を使用し、校内の日本語教室に移動して実施しています。

支援内容は、2つに分けられます。1つは、教科学習の支援です。授業で解いたプリントやテストのやり直しを中心に行い、教科は、主に国語と算数です。国語では、漢字の読み方や書き方を一緒に復習します。算数は、問題文をスペイン語で説明することに加え、絵や道具を使って説明するなど、問題文や解答への理解に、少しでも近づけるための工夫に努めています。

2つ目は、日本語指導です。日本語指導は、野菜や果物、動物などの絵カードを使用して、日本語のことばを増やすサポートをしています。Aさんは特に、この絵カードを使う日本語の勉強を楽しんでいるようで、嬉しそうに絵カードを取りに行く姿がとても微笑ましいです。また、覚えたことばを身近で見つけると、嬉しそうに「つくえ！いす！」と私に伝えようとする場面はとても印象的です。

Aさんの楽しんでいる場面は、同時に私が安心する場面でもあります。このように感じるのは、通常学級ではとてもおとなしいからです。周りに、自分のことばで会話できる人がいないからかもしれません。しかし、日本語教室

に来ると、たくさんの笑顔を見せてくれるのです。家で飼っている犬の話やお母さんに買った洋服の話、図書室で借りた本の話など、たくさんのお話をしてくれます。そのような、ありのままのAさんを見ると、日本語教室がAさんの居場所の1つになっているのではないかと感じます。現時点では、日本語で会話することは難しいですが、少しでも学校に通う楽しみをもってもらいたい、日本語教室がそういった場所であってほしい、そんな思いを大切にしながらAさんに接しています。日本語を覚えることももちろん重要ですが、Aさんが使える言語で様々な体験や感情を表現することも重要だと思ひ、今はスペイン語でのコミュニケーションも大切にしています。

また、Aさんの学習支援を通して、先生方のサポートも非常に印象的です。それは、Aさんの担任の先生や日本語教室の先生方が、スペイン語の辞書を方手に、あるいは覚えたスペイン語でAさんに接している光景です。Aさんだけが日本語の勉強に尽力するのではなく、先生方も一丸となってAさんに向き合う姿からは、お互いに歩み寄ることの大切さを実感させてくれます。

毎回試行錯誤をしながらの学習支援ですが、学校に通う楽しさを少しでも感じてくれるように、この活動を継続することで貢献できればと考えています。